

青春満載 第1弾 ケンタロウの場合

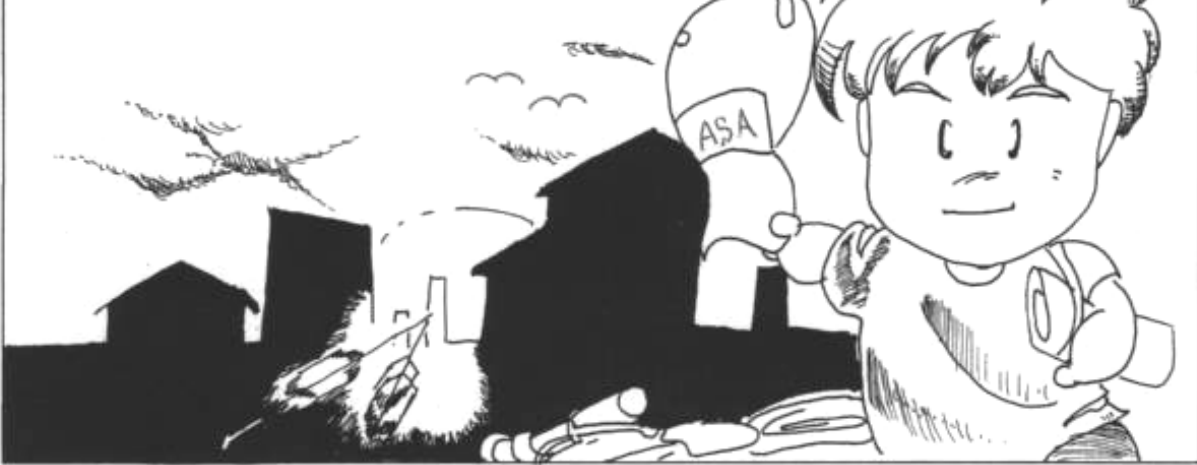
# 一緒に青年団やろうぜ！の巻



企画・編集・発行 (財)愛知県青年会館

青春満載 Vol 1 ケンタロウの場合

「一緒に青年団やろうぜ！」の巻



高校卒業後、家業の新聞配達店の  
手伝いをしているが、今ひとつ満  
たされない生活を送っていた。



ケンタロウは  
愛知県内の中堅  
都市に住む、ご  
くフツウの19  
歳の若者であ  
る。



高校時代の友達との  
ツーリングもそれな  
りに楽しかったけれ  
ど・  
ど・



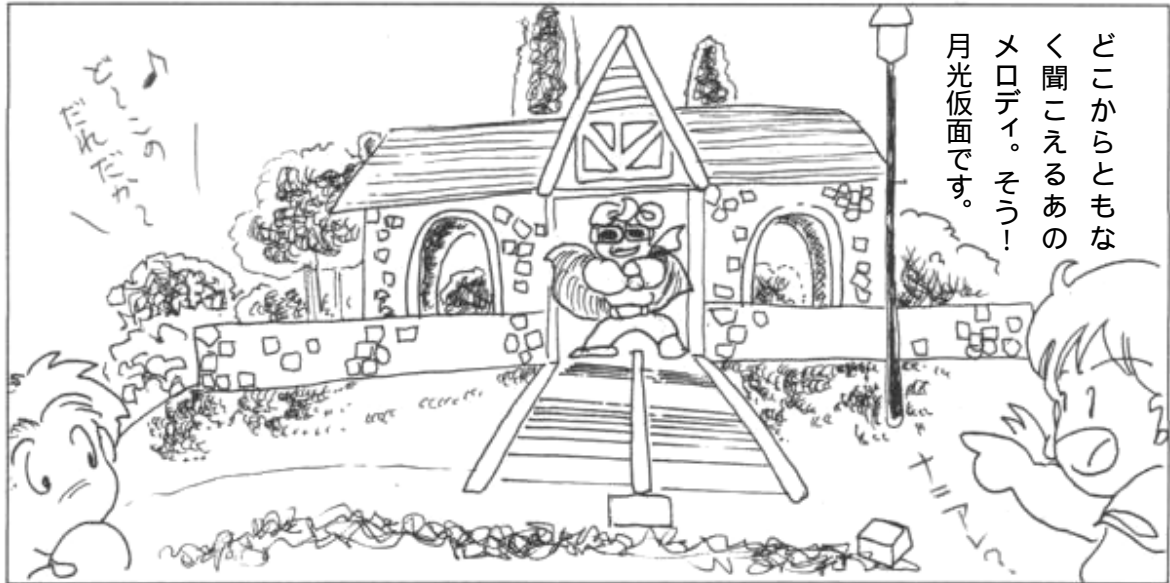
ケンタロウ、行こうぜ・・・



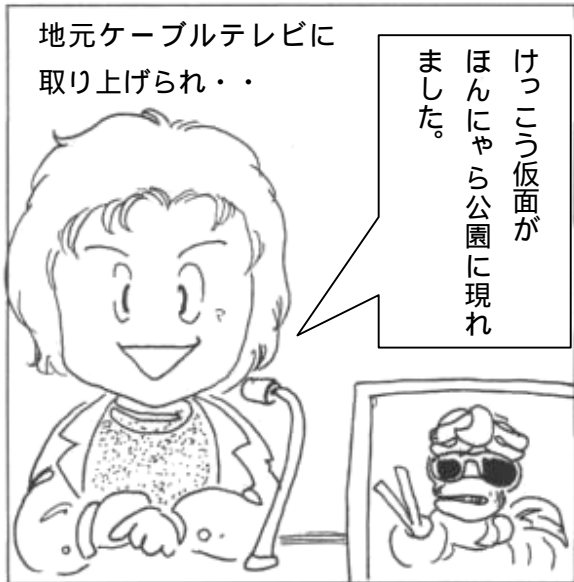


ケンタロウの住む町内には、市内唯一の青年団があった。そんなある日。





どこからともなく聞こえるあのメロディ。そう！月光仮面です。



地元ケーブルテレビに取り上げられ・・・

けっこう仮面がほんにやら公園に現れました。



正義の味方、フンやゴミはもうけっこう仮面参上！

けっこう仮面とショッカーはゴミ拾いをはじめた。

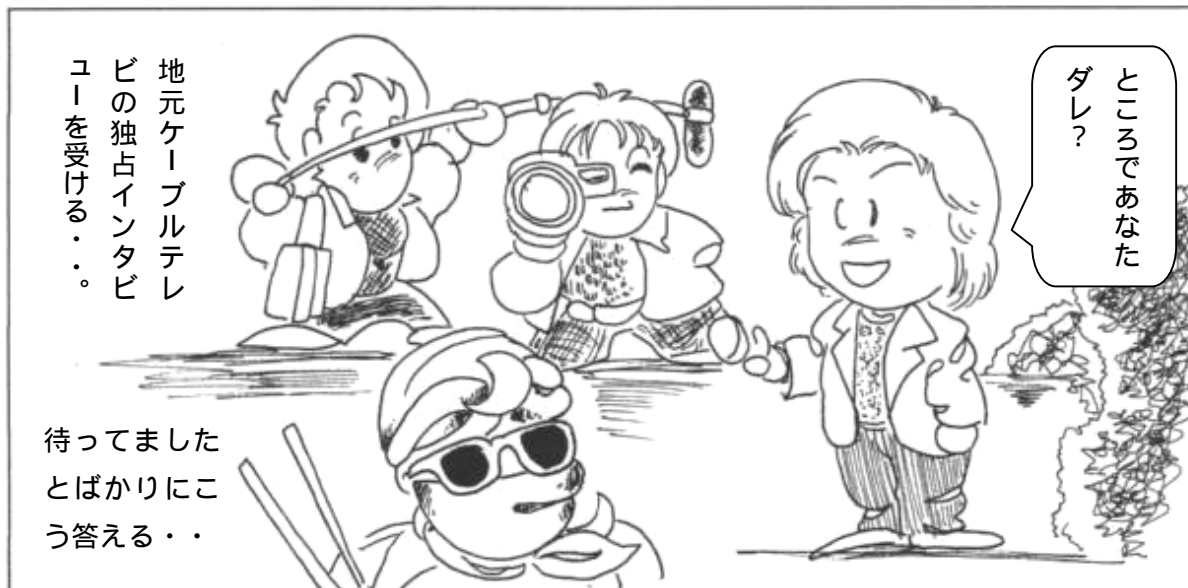


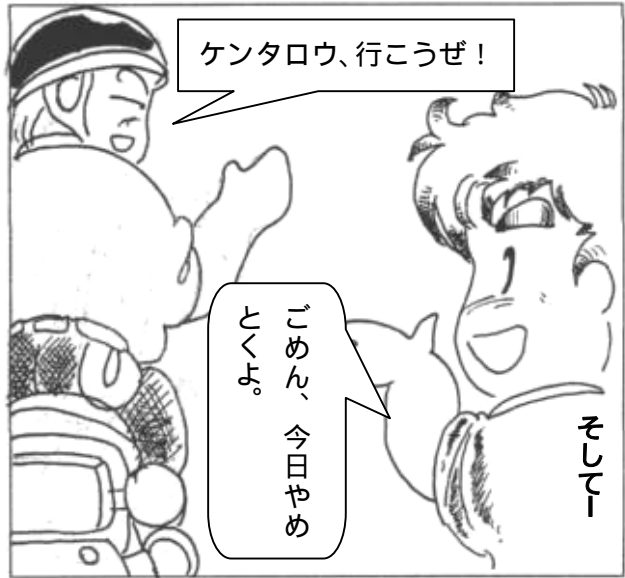
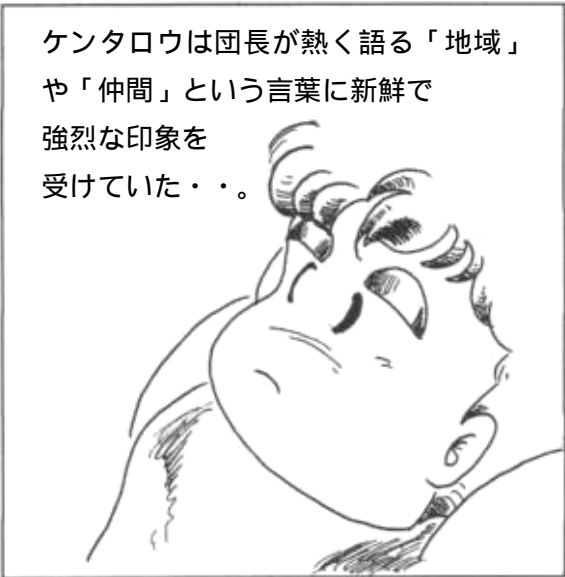
上へ下への大騒ぎとなった・・・

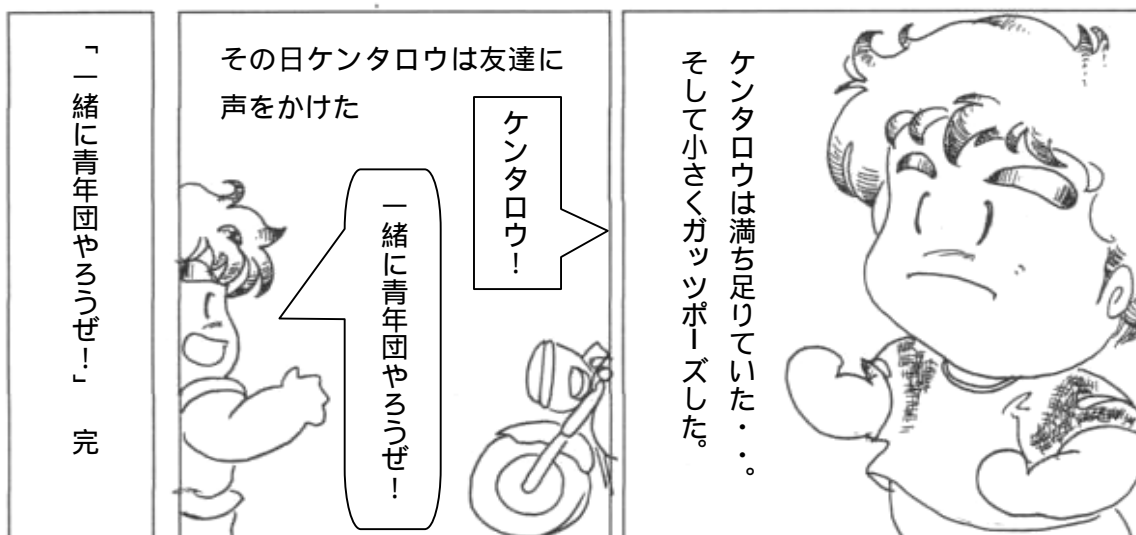


次の朝・・・  
役所の電話が鳴り響き・・・

それがよく判らないのです、ハイ。







ご覧になった皆様へ

少なくなったとはいえ、県下各地で活動している地域青年団はいくつもあります。そうした青年団の日常活動のひとつをドラマにしてみました。近年、青年は組織化を嫌うとか、仕事が忙しいなどの理由から、地域の青年団活動や消防団活動に係わることが少なくなってきました。

しかし、そんな若者でも、ちょっとしたきっかけさえあれば青年団活動に積極的に参加するようになったりします。

ドラマ中のケンタロウ君は高校時代の仲間とのツーリングなど、それなりに楽しかったのだけれど、なんとなく満たされない日々を送っていました。やがて青年団の勧誘、入団によって生活が変わります。青年団活動を通して「仲間」の中でたよりにされ、「地域」の中で、信頼と期待を肌で感じるようになっていくのでした。

やがて、ケンタロウ君は高校時代のツーリング仲間にも「青年団やろーぜ」と声をかけることになります。ケンタロウ君自身や青年団が地域に必要とされていることを実感し、そのことに共感してくれる仲間を勧誘し、大きく青年団の輪を広げていこうとする原動力となったのでした。

わたしたちは県下各地に、できるだけ多くのケンタロウ君を輩出したいとの願いを持っています。ここで繰り広げられた「けっこう仮面プロジェクト」は愛知県青年会館の公益活動推進委員会が提唱したプロジェクトで、県内の青年団が取り組んでいます。

地域の青年5~6人がいれば、簡単に取り組めるようにマニュアルも作成しています。このドラマをご覧になり、地域青年団の復活やグループサークルなどの活性化にお役に立てればと思います。プロジェクトに興味をもたれ、(財)愛知県青年会館までご一報いただければ幸いです。

進行中プロジェクト

「フンやゴミはもう けっこう仮面参上! プロジェクト」

(財)愛知県青年会館 052-221-6001 (星野まで)